

白浪時報

2012年
8月6日
第4号発行

発行
白浪五人男
ブログ

「毒賽」って何のこと!?

その昔、賭けごとは占いの一種だった?

密くじも博打の仲間?

「浜松屋」の場面で弁天小僧との騙りを見破られた南郷が、自分の正体を明かす時のセリフに「毒賽(どくさい)」「という言葉が出てくる。おそらく賽はサイコロで、「船玉」は漁師の守り神を祀っている船玉神社、または海(わたつみ)神社のことを指すと思われる。

もしかしたら、南郷は船玉神社で賭け

「お役所」関係の方々(自身の不勉強と、宣伝不足を棚上げ)「芸術なんて無駄な類である。」

「お役所」関係の方々(自身の不勉強と、宣伝不足を棚上げ)「芸術なんて無駄な類である。」

「お役所」関係の方々(自身の不勉強と、宣伝不足を棚上げ)「芸術なんて無駄な類である。」



元・漁師の南郷力丸

ごとに興じていたのかも知れない。

古代(中世(室町前期)までは、「賭けごと」は偶然の遊び、または「神の意志(神意)を占う」力を持つ巫女的役割があると考えられ、平安貴族の間

で流行したりと、現代のように「賭けごと」反社会的行為」という認識ではなかったようだ。

とは言え、やはりモノには限度があつて、ギャンブルに興じる人が増えると社会秩序が乱れるのか、政治も安定してきた江戸時代初期には、幕府は彼らを取り締まるために、博打がバレると獄門が死刑博打をした本人以外にも、関係者までもが牢に入れられるなど、厳しく弾圧していた。

しかし、今ではポピュラーな宝くじ系の「富くじ」(「神社の立て直しの寄付金を集める目的)や、

皆、ちよつとしたことでイライラして、心に余裕がなくなつた時代にこそ、芸術は必要と感ずる。

「芸術」は心がささくれ立つて自信も喪失した時、心の糧になり、自身の知識や見解を広め、人間性にも深みを与えらると思つ。

な競争を強いられ、効率優先、利益最優先の世の中なんて、味気ないというか、

芸術のない世界なんて...

世の中、不景気になると思つ先に予算が削られるのは、芸術、娯楽・嗜好品の類である。

「お役所」関係の方々(自身の不勉強と、宣伝不足を棚上げ)「芸術なんて無駄な類である。」

「お役所」関係の方々(自身の不勉強と、宣伝不足を棚上げ)「芸術なんて無駄な類である。」

「お役所」関係の方々(自身の不勉強と、宣伝不足を棚上げ)「芸術なんて無駄な類である。」

中世(江戸時代の賭けごとは、意外にも「外」で行われることが多かったそうだが、たとえば神社の境内や地蔵の影などに「神や仏の加護が及ぶ場所」だったり、或いは無縁や苦界を意味する「誰もいない場所」である林や森の中、河原や砂浜

などの場所が好まれた。冒頭の南郷は、神社でサイコロの賭けごとをしていて、何故サイコロに「毒」とついているのか、毒賽が何の意味を表しているのか、不明である。真相をご存知の方は、ご一報下さい。

賭場の謎

アングラなのに、アウトドアの矛盾

「お題」の俳句や連句に続く下の句の投稿を募集し、「誰が一位か」を予想する三笠付(みかさづけ)など、「博打が大衆化」したのも、江戸時代のことである。

別に音楽自体が不人気な訳ではなく、夜の部の公演を観られる「泊(ひ)のツアー」が常時あれば、全国の文楽ファンは喜んで観に行くだらう。

また、江戸時代は新作が次々と発表されたように、今回の騒動と艶聞を元にした新作を作れば、より面白くなると思つ。

善ストーン

鎌倉・長谷にある天然石と化石のお店です。店内にはカラフルなパワー・ストーンプレスレットや、珍しい鉱物、化石がズラリ! その光景はまさに圧巻です。しかもかなり安い! 石好きの方には至福のお店です。

営業時間9:00~18:00頃(不定休)
鎌倉市長谷2-15-16

江ノ電・長谷駅より横断歩道を渡って、長谷観音の方向へ徒歩2分。
三菱東京UFJ銀行C D 隣

大阪の文楽騒動で思うこと

現在、音楽の発祥地である大阪よりも、東京の方が音楽のチケットが取りにくい状況にあるようだ。

大阪も昼の部は盛況なのだが、(東京国立劇場より座席数が約百席多く、上演期間も長いせい)夜の部は空席が目立つらしい。そこへ独断と偏見に満ちた某市長が、自身の無知をさらけ出す「アフォーマンス」(「もはや「パフォーマンス」と呼ぶのさえアホらしい)で、音楽を衰退文化の象徴として批判している。

破滅の恋

ミスマツチな相手 ほど、燃える恋

実録清姫の恋愛 追っかけ人生

世の中には、非の打ちどころのない美女なのに、「なんで、あんな男で良かったんだろ?もつとマトモな男を選べば良かったのに」と思うほど、「男運」の悪い女性もいれば、反対に容姿も性格も、同性からの評判も良くない女性が、いい男をゲットしたりと、この世は謎に満ちている。

本来は相思相愛が理想的だけど、なかなか現実と思うようにはいかない。「安珍清姫」の清姫も、一人の男に固執した故に、身を滅ぼしたのだらう。

まあ、イケメン男子中高生みたいなのも、あの年頃の子は「他人の迷惑」を顧みず、相手の都合などお構い無しで、真正面から「好き・好き・好き・好き・好きー!」と相手に迫るから、モテる人は大変だ。

若気の至りの恋

でも、大概は「一過性」のものだから、「別の人」を好きになってしまえば、コロッと忘れてしまう。女心は常に移ろいやすいものなのだ。

「桜姫東文章」の桜姫も、あんなにラブラブだった釣鐘権助が親の仇と分かった途端、権助との熱



愛は「なかったこと」に。権助と、彼との間にできた子供を手にかけ、実家の仇をとり、彼らの存在すら「なかった」事にして、場末の売春婦から、元のお姫様に戻るのだ。

まさかの釣鐘権助!?

清姫がそういう「熱しやすく冷めやすい」タイプだったなら、安珍もうまく逃げられただろうに。(お嬢さん!惚れる相手を間違えてまっせ!)

でも、こういうプライドが高く、潔癖で「思い込んだらまつしぐら」なタイプのお嬢さんは、セクハラまがいの「寒いギャグ」を連発するアホ男や、自

権助つて、誰だっけ?

桜姫

都合の悪いことは、何一つ覚えてませう



不定期更新中!
白浪五人男ブログ
<http://srnm5men.seesaa.net/>

信過剰で自己意識過剰の勘違い野郎や、野心と下心でギラギラした男なんか、絶対に好きにださうしな。

ひよつとしたら清姫は、自分の家柄とルックスに絶対

安珍清姫伝説とは

奥州・白河(現在の福島県白河市)出身の安珍は、見目麗しい美青年の僧侶だったとか。

安珍は仏道修行のために、遠路はるばる紀州の熊野本宮大社(現・和歌山県田辺市本宮町)までの旅を続け、熊野の近くの真砂(まなご)に辿り着く。

その日の晩、その有力者の家に宿泊させてもらったところ、その家の娘である清姫に安珍は気に入られてしまった。

野心的な男なら、有力者の娘に気に入られ、結婚できるなんて願ってもない出

世だろつが、安珍は修行中の身。清姫の気持ちを受け入れる訳にはいかない。

猛アタックしてくる清姫に、タジタジとなった安珍は、「熊野詣を終えたら、必ず立ち寄る」と、その場しのぎの嘘をつき、ひとまず清姫から逃れた。

その約束をすつかり信じ、清姫は安珍の戻って来る日を今か、今かと待っていたが、待てど暮らせど来やしない。

さすがに騙されたと気づいた清姫は、嫉妬のあまり大蛇に変身し、安珍を追い回す。ついには道成寺の釣り鐘の中に隠れた安珍を追い詰めて、身体を鐘の周りに(7周り半も)巻きつき、焼き殺してしまふ。という女の怨念と嫉妬の伝説。

《参考文献》

- 朝日新聞 & Entertainment 2007年5月12日 土曜日
- 「愛の旅人 安珍と清姫 『娘道成寺』」より